

様式第6号(会派用)

政務活動実施報告書

令和 5 年 8 月 30 日

村上市議会議長 三田 敏秋 様

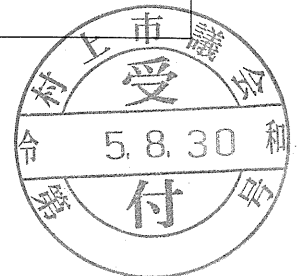
会派名 市声クラブ

代表者氏名 木村 貞雄



当会は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

	経理責任者氏名	本間 善和
用務名	銚子漁港 洋上風力発電の現状と現地視察について 佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業の現状と現地視察について 子育て家庭の経済的負担軽減のため、学校給食費無料事業の状況について 有害鳥獣(シカ)商品化施設整備事業の施設視察について	
実施日時	令和 5 年 8 月 22 日 (火) 午前8時 30分 令和 5 年 8 月 24 日 (木) 午後5時 00分	
用務先	千葉県 銚子協同事業オフショアウインドサービス株式会社 千葉県香取市 経済企画部企画政策課政策班 群馬県太田市 教育委員会教育部学校施設管理課学校給食係 長野県小諸市 産業振興部農林課	
参加議員名	木村貞雄 山田 勉 本間善和 上村正朗	
全体参加者数	4 名	
概要及び所見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 別紙	
備考		



銚子漁港 洋上風力発電の現状と現地視察について

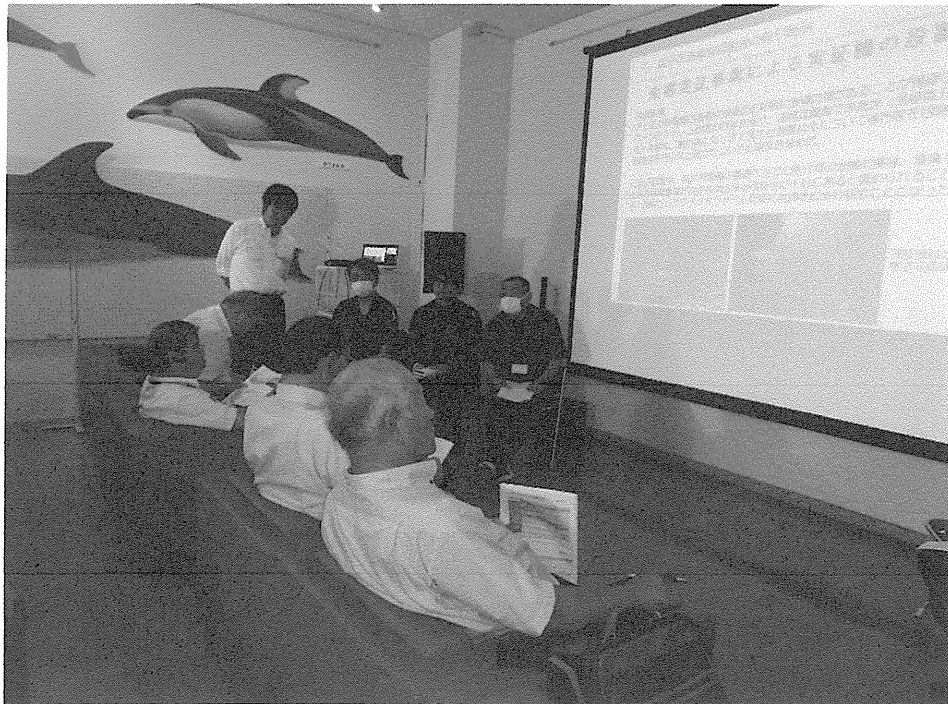
将来的に重要な再生可能エネルギーとして、先進的な洋上風力発電事業を進めている、銚子漁港洋上風力発電の現状視察と課題等について調査研究を行った。

銚子市沖洋上風力発電事業の概要は、計画の発電設備出力 403 MW、31 基で建設が進められている。現在は 2021 年に公募占用計画認定、海底地盤調査、環境影響評価、詳細設計、各種の認証、漁場実態調査、漁業影響調査などを漁協関係者と協同で調査研究を進めている。一方、地元経済への波及効果について商工会議所などを含む地元企業と連携し、地域の雇用拡大の調査研究を実施していた。

洋上風力発電事業は、莫大な設備投資により、地域に与える経済効果は大きいものと考えられるがこれらを活かすためには、地元の経済界、特に商工会議所との連携を重視すべきと思った。また、洋上に設置する発電所となる事から漁業者への漁獲量、環境変化等の理解が重要と感じた。本市においても、これから進める洋上風力発電事業においては、十分な調査と関係者との連携を深め取り組むべきと思われる。



洋上風力発電視察状況



洋上風力発電視察状況

佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業の現状と現地視察について

図書館、貸出施設、子育て支援、観光情報等の機能を持つ複合的施設を整備し、幅広い世代の交流と新たな人の流れを創出し、中心市街地の活性化を図った経緯と状況や課題等について調査研究を実施した。

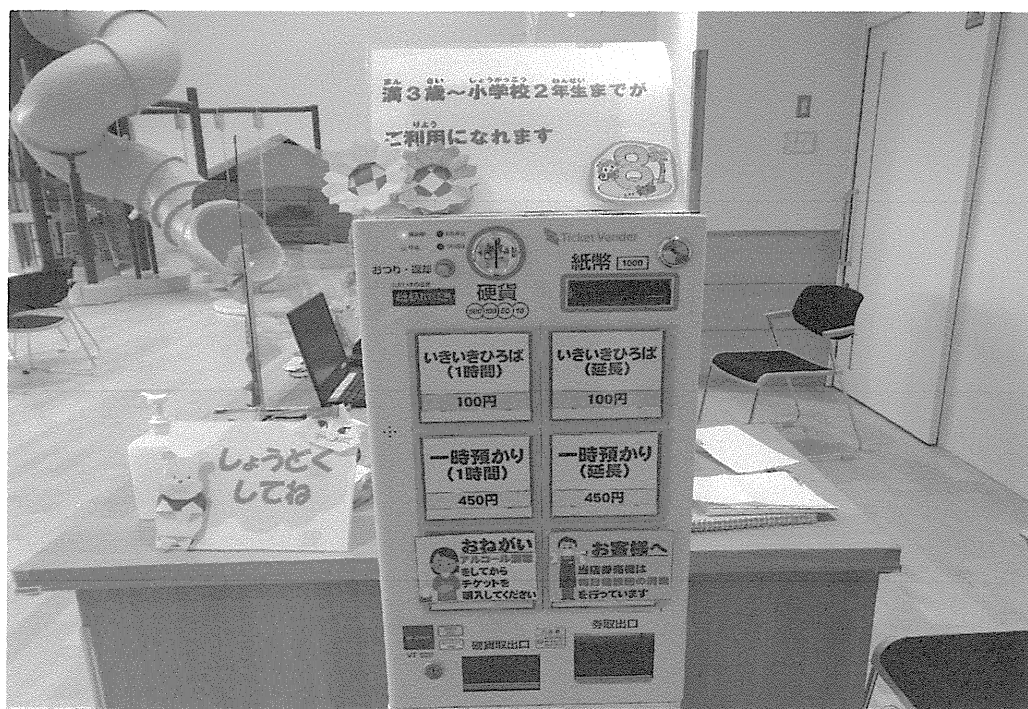
施設の設置場所は、佐原駅前の旧公民館跡地に鉄骨造、地上4階建て、駐車場195台の施設を令和4年10月にオープンした。施設の機能としては①佐原中央図書館②多目的ホール等貸出施設③子育て世代支援施設④観光情報発信施設⑤市民活動サポートセンター⑥テナント(銀行・カフェ・社会福祉協議会)が設置された複合施設である。

特に注目した点は、施設の建設をDBO方式により建設を実施し、維持管理も同じ事業者へ委託している点である。DBO方式は民間事業者が施設の設計、建設、管理運営を一括で担わせる方式で、事業者が運営段階を見越して施設建設にかかわることにより、業務の効率化が図られ、事業全体のコスト削減が図られた。基本設計金額に比べ、約17.1億円の削減が図られた。

本市においても、これから建設予定の複合施設はこのような点について参考とすべきと思った。また、維持管理費の歳入確保のためにも、テナントスペースも考慮すべきと思われる。



佐原駅周辺活性化拠点施設視察状況



佐原駅周辺活性化拠点施設視察状況

子育て家庭の経済的負担軽減のため、学校給食費無料事業の状況について

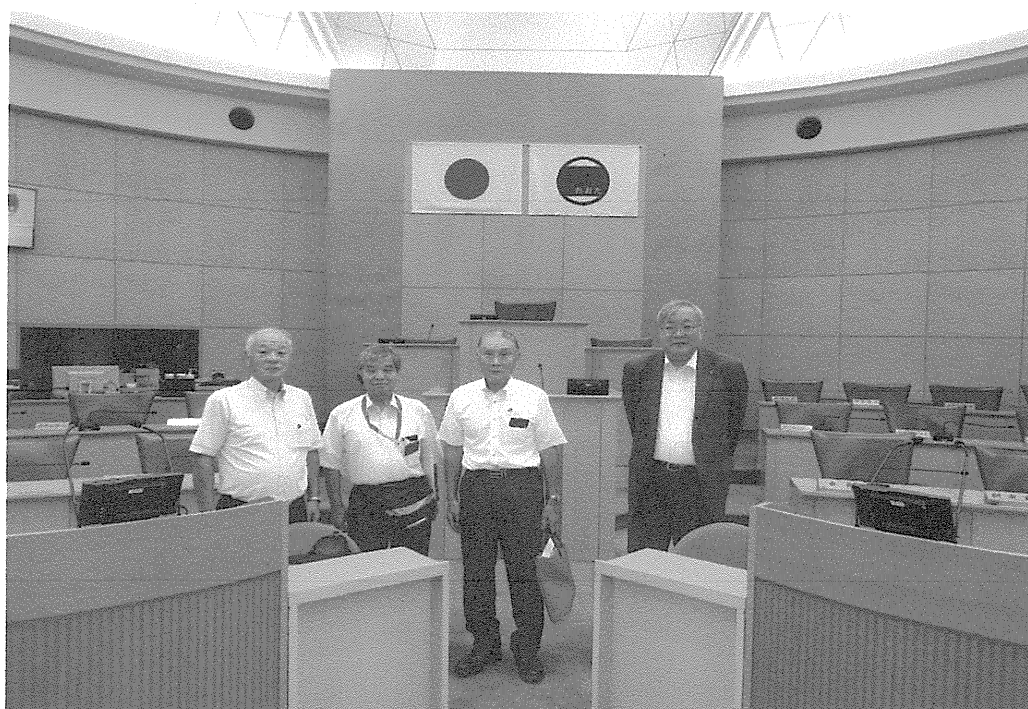
学校給食費を無料化することで、子育て世代が抱える経済的負担を軽減し、安心して子育てできる環境を整えるため取り組んでいる太田市の現状と課題等を調査研究した。現在の学校給食の実施状況は、小学校24校、中学校15校、義務教育学校1校の40校であり、学校給食費は無料となっている。教職員を含めると約20,000食/日を提供している。

生徒数で17,444人が毎日給食を食べ、地域農業との関わりとして太田市の地元野菜の使用率が昨年は41.0%と非常に高い。

参考に群馬県内の学校給食無料化を実施している市町村は18市町村と多くの市町村が取り組んでいた。貧困家庭の子育て対策と地元農家の野菜等の消費拡大のためにも重要な対策と考えられた。今後国の対策として早急施策が展開されることを期待したい。



太田市学校給食費無料事業視察状況



太田市学校給食費無料事業視察状況

有害鳥獣(シカ)商品化施設整備事業の施設視察について

農作物へ深刻な影響を与えるシカを駆除し、駆除したシカの有効活用を図るため、シカ肉をペットフード等に加工販売し、効果的な野生鳥獣対策を実施している小諸市の取組状況と課題等について調査した。小諸市においても本市と同様に有害鳥獣(シカ)に苦慮していたが、駆除したシカの処分に多額の経費を要するため、シカ肉・骨等をペットの餌として商品化するため、北海道大学の竹下さんを小諸市の職員(野生鳥獣専門員)として採用し、本格的なペット用の食材として販売していた。このことにより、ハンターの処分問題は解消され、経営的にも、現在は黒字経営を営むことができていた。成功の鍵は、鳥獣に精通した専門の職員採用と感じる。本市においても、今後、確保した個体の埋設には場所と環境問題、焼却には多額の経費が予測されるため、小諸市の対策を手本に専門員の配置を早急に考えるべきと思う。



小諸市シカ商品化施設視察状況



小諸市シカ商品化施設視察状況